様式（1）-①

都市再生整備計画

朝日（あさひ）まちなか地区（第二回変更）

福井県（ふくいけん）　越前町（えちぜんちょう）

令和7年1月

目標及び計画期間

様式（1）-②

都道府県名	福井県	市町村名	越前町	地区名	朝日まちなか地区（第二回変更）	面積	114 ha

計画期間	令和 5 年度 ～ 令和 9 年度	交付期間	令和 5 年度 ～ 令和 9 年度

目標

大目標：越前町の「にぎわい・生活拠点」としての魅力の向上
目標1：安心・安全で、新たな生活スタイル等にも対応する生活拠点の創出
目標2：多様な交流の舞台・機会の創出による地域コミュニティの醸成
目標3：地域資源の活用と多様な主体の交流・連携による地域経済の活性化

目標設定の根拠

都市全体の再編方針（都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の考え方を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針） ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。
・本町は、朝日町、織田町、宮崎村、越前町の4町村の合併により新たに誕生した都市で、旧4町村の中心部にはそれぞれの地区の特性を反映した拠点が形成されてきた。
・一方、用途地域周辺における小規模な住宅等の開発や、一部の地区では国道417号沿線への商業機能の移転・郊外化が進んだことで、中心部のにぎわい低下が進んでいる。
・また、少子高齢化の進展等により、今後も人口の減少が続くと推計されており、中心部のにぎわいや活力の低下がますます懸念される。
・このため、3地区（旧4町村のうち、都市計画区域外に位置する越前地区を除く）の中心部については、「住み続ける」ために必要な都市インフラの維持・改善や、日常生活に必要な医療、福祉、子育て支援、商業等の既存の都市機能の維持・集約、地域コミュニティを育むふれあいの場の提供等を進め、地域特性を活かした生活拠点の形成を目指していくものとする。
・特に本町の「にぎわい・生活拠点」に位置づけられる朝日地区では、施設の老朽化に伴い、地域の身近な交流機能が不足していることから、既存施設に隣接する町有地を有効活用しながら、住み続けられる環境に不可欠な交流機能を整備することで、都市機能の拡散防止と公的不動産の有効活用を図るものとする。
・また、新型コロナウイルス感染症拡大を契機とした新たな働き方・住まい方に対応するため、コンパクト・プラス・ネットワークの取り組みを前提とした職住近接・一体の生活圏の形成が求められている。このため、職住近接を支える既存の取り組み（統合保育所の整備等）に加え、テレワークやコワーキング等に対応する環境を整えることで、柔軟な働き方と暮らしやすさに対応したまちづくりを推進する。
・この他、旧4町村のうち、織田・宮崎・越前の3地区は、それぞれ個性豊かな地域資源・地域ブランドを有しているが、朝日地区は、このような地域ブランドを有していないことから、地場の農産物等を活かした商品開発（農林水産業の活性化）等を推進し、地域のにぎわいや経済の活性化、雇用（働く場）の創出等につなげていくものとする。

まちづくりの経緯及び現況
・本地区は、本町の「にぎわい・生活拠点」として位置づけられており、越前町役場をはじめとする主要な公共施設が集積するほか、沿道には中小の商業施設が立地した「にぎわい・生活拠点」となっている。
・近年は、本地区内人口が減少傾向にあるほか、店舗等の減少、空き地・空き家の増加が顕在化しており、まちの活力低下が懸念されている。
・このような状況を踏まえ、平成26～30年度にかけては、定住人口や交流人口の増加を目的とした都市再生整備計画事業に取り組み、安心・安全な市街地環境づくりに向けた道路、公園、消雪設備等のインフラ整備や観光PR事業を実施してきた。
・また、土地区画整理事業等の面的整備による新たな住宅地整備や、統合保育所（保育所、子育て支援センター、児童センター、放課後児童クラブ室等）の整備も進み、子育て世代を中心に本町内外からの転入世帯も徐々に増えつつある。
・一方、本地区内には、面的整備済地区であるにも関わらず宅地化が十分に進んでいないエリアや、冬期間（積雪時）における道路交通の安全性が十分に確保できてないエリアが存在する。また、地域交流施設の老朽化が進み、地域の交流や経済活動等に様々な支障が生じている。
・さらに、朝日地区の住民からは、「就業の場が少ない」、「中心地区としての交流・にぎわいの場が不足している」等の意見がある他、新型コロナウイルス感染症拡大を契機に、新たな働き方等への対応が求められている。
・このような状況を踏まえ、今後は、本町の「にぎわい・生活拠点」としての機能向上に向けて、更なる都市基盤の整備を推進する他、地区のニーズや新たな生活スタイルに対応した都市機能の整備等を推進するなど、より一層の定住環境づくりを進める必要がある。

課題
〇これまで整備してきた都市基盤や面的整備により新たに整備された市街地、子育て支援機能をはじめとする各種都市機能等の既存ストックを活かした快適な生活拠点を創出するため、本地区内の一部エリアで問題が残る冬期間（積雪時）における安全・安心な道路交通環境の確保が必要である。
〇人口や都市機能等がコンパクトに集積する都市構造の実現に向けて、面的整備済地区における宅地化を促進し、定住人口や都市機能の維持を図ることが必要である。
〇新たな地域資源の発掘と、これらを活かした特産品・地域ブランド品の開発・展示・PR等を推進することで、地域経済の活性化、雇用（働く場）の確保、本町全体及び朝日地区におけるにぎわいの創出を図ることが必要である。
〇既存施設の老朽化に伴い、地域の交流や様々な活動の場が不足しているため、地域における多様な交流、経済活動、文化活動等の拠点となる都市機能の整備が必要である。
〇新型コロナウイルス感染症拡大を契機として、場所にとらわれない柔軟な働き方が求められる中、新たな生活スタイルを実現するため、テレワークやコワーキング等に対応する都市機能の整備が必要である。
〇施設の整備に関しては、公的不動産を有効活用する観点から、老朽化している地域交流施設（周辺も含め底地は町有地）の建替えに合わせ、必要な機能を複合的に整備し、本地区の交流・にぎわいの拠点を創出する。

将来ビジョン（中長期）
＜第二次越前町総合振興計画＞
・人口減少下においても、町民が安心して幸せに暮らし続けられるまちづくりに向けて、快適で安全な住環境の整備、地域コミュニティと人材の育成、地域に根差した産業基盤の強化、地域資源の発掘・保全・活用などの個別課題を設定。
＜都市計画マスタープラン＞
・将来都市構造において、本地区が位置する朝日地区は、「広域交流拠点」、「にぎわい・生活拠点」に位置づけられている。
※「広域交流拠点」本町内の特色ある地域特性を活かした広域的な交流拠点として、観光、ビジネス等の広域的な交流機能の強化を推進する。
※「にぎわい・生活拠点」本町全体及び朝日地区におけるにぎわいづくりを進めるとともに、住民生活を支える生活拠点として、居住環境の向上、生活サービス機能、公共交通サービス機能の提供を推進する。
・地区別のまちづくり方針では、まちづくりのアイデアとして、地元特産品の開発・PR、周辺部の生活環境の改善、中心部への都市機能の集約、定住環境の改善等が整理されている。
＜立地適正化計画＞
・「にぎわい・生活拠点」として、越前町内外からの移住による多世代の人口集積を推進するほか、都市機能誘導区域の周辺にコンパクトに集約することで、利便性の高い住宅地を形成する。
・越前町及び朝日地区におけるにぎわいづくりの場として、住民の日常生活を支える医療、福祉、子育て支援、商業等の生活サービス機能の集積を図る。
・誘導施設（文化教育機能）として、「コミュニティセンター」や「多目的ホール」等が位置づけられている。

都市構造再編集中支援事業の計画　※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。

都市機能配置の考え方

・本町は2つの都市計画区域に属し、3地区（4地区のうち越前地区は都市計画区域外）の中心部に各地区の生活拠点が形成されている。
・日常的な住民の生活圏は、隣接する福井市、鯖江市、越前市等への通勤・通学をはじめ、医療、福祉、子育て支援、商業等の面においても広域化しており、多くの都市機能をこれらの都市に依存している状況である。
・このため、都市機能に係る隣接市との機能分担を図りつつ、各地区では、日常生活における身近な都市機能を基本にした機能集積を高め、より利便性のある生活サービスの提供を目指すものとする。
・また、持続的なまちづくりの推進に向けては、定住人口に加え、交流人口（観光・ビジネス等で訪れる人）や、関係人口（継続的に多様な形で地域と関わる人）の増加が必要であり、地域の魅力を高め、他都市からの転入者や地域と繋がる関係者を増やしていくことが必要である。
・朝日地区には、他地区ほどのブランド力を持ったものや資源がない状況であることから、朝日地区における新たな資源の発掘や、これらの資源を生かした商品開発等の推進が必要である。
・このような状況を踏まえ、本町のにぎわい・生活拠点の形成に向けては、朝日地区における多様な交流の促進が不可欠であることから、地域交流施設の老朽化に伴う機能不足を改善する新たな交流機能の整備や、地域住民の新たな働き方・住まい方に対応するとともに、新たな商品開発等に係る多様なビジネス交流（関係人口の増加）を促進するテレワークやコワーキング機能等の整備が必要である。

都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等

目標を定量化する指標

指　標	単　位	定　義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
地区内人口（年平均減少率）	%	本地区内に全てのエリアが含まれる西田中本通一区～六区、西田中宮前一区～二区、西田中駅前一区～三区の居住人口（住民基本台帳）	都市基盤施設や交流施設の整備等により、生活拠点としての質を高めることで、直近10年間のピークである1,318人（H25）から1,281人（R2）までの年平均人口減少率（−0.4%/年）を抑制する。	0.4	R2	0	R9
地域交流センターの利用者数	人/年	新たに整備する地域交流センターの年間利用者数	地域のニーズや社会情勢を踏まえた新しい生活スタイル、多様なビジネス交流等に対応する施設としての機能拡充を図ることで、多様な交流を促進する。	1,940	R1	3,000	R9
地域交流イベント等の開催件数	件/年	新たに整備する地域交流センターやにぎわい広場で開催する地域交流イベント等の年間開催件数	地元商店街や商工会、各種団体、コミュニティセンター等の繋がりを深め、交流イベントを定期的に開催することで、交流・関係人口の拡大、にぎわいの創出等を図る。	1	R1	3	R9

整備方針等

様式（1）-③

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
【安心・安全で新たな生活スタイル等にも対応する居住環境の創出】 ・これまで整備してきた都市基盤や面積整備により新たに整備された市街地、子育て支援機能をはじめとする各種都市機能等の既存ストックを活かした快適な生活拠点を創出するため、一部エリアで問題が残る冬期間（積雪時）における安全・安心な道路交通環境を確保するほか、災害時における避難場所・避難所機能の充実を図る。 ・新型コロナウイルス感染症拡大を契機とした新たな働き方・住まい方に対応するため、テレワークやコワーキング等に対応する都市機能の充実を図る。	【基幹事業】（道路）町道中央線（道路消雪工事） 【基幹事業】（道路）町道本通線（消雪井戸さく井工事） 【基幹事業】（公園）朝日中央公園（再整備） 【基幹事業】（高次都市施設）地域交流センター・テレワーク拠点施設：（仮称）朝日地域交流センター
【多様な交流の舞台・機会の創出による地域コミュニティの醸成】 ・既存施設の老朽化に伴い、地域の交流や様々な活動の場が不足しているため、地域における多様な交流、経済活動、文化活動等の拠点となる都市機能の充実を図る。	【基幹事業】（公園）朝日中央公園（再整備） 【基幹事業】（高次都市施設）地域交流センター・テレワーク拠点施設）：（仮称）朝日地域交流センター 【提案事業】（まちづくり活動推進事業）オープニングベント支援事業
【地域資源の活用と多様な主体の交流・連携による地域経済の活性化】 ・新たな地域資源の発掘と、これらを活かした特産品・地域ブランド品の開発等に係る多様なビジネス交流を促進することで、地域経済の活性化と関係人口の増加に繋げる。	【基幹事業】（高次都市施設）地域交流センター・テレワーク拠点施設）：（仮称）朝日地域交流センター

その他

【まちづくりの住民参加】
・越前町商工会が中心となって、地域住民や商工業者との連携を図りつつ、商工祭や西田中'町ブラ 'ギャラリープロジェクト、あさひまつりなどを実施しており、にぎわい創出に努めている。

目標を達成するために必要な交付対象事業等に関する事項（都市構造再編集中支援事業）

様式（1）-④-1

交付対象事業費	934	交付限度額	461.7	国費率	0.494

（金額の単位は百万円）

基幹事業

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	（参考）事業期間 開始年度	（参考）事業期間 終了年度	交付期間内事業期間 開始年度	交付期間内事業期間 終了年度	（参考）全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費	費用便益比 B／C
道路		町道中央線	越前町	直	480m	R7	R9	R7	R9	82	82	82		82	－
道路		町道本通線	越前町	直	3箇所	R6	R9	R6	R9	123	123	123		123	－
公園		朝日中央公園	越前町	直	880㎡	R8	R9	R8	R9	34	34	34		34	－
古都保存・緑地保全等事業															
河川															
下水道															
駐車場有効利用システム															
地域生活基盤施設															－
高質空間形成施設															
高次都市施設	地域交流センター	（仮称）朝日地域交流センター	越前町	直	1,883㎡	R5	R7	R5	R7	682	594	594		594	－
	観光交流センター														
	テレワーク拠点施設	（仮称）朝日地域交流センター	越前町	直	1,883㎡	R5	R7	R5	R7	109	95	95		95	－
	子育て世代活動支援センター														
	複合交通センター														
誘導施設	医療施設														
	社会福祉施設														
	教育文化施設														
	子育て支援施設														
	元地の管理の適正化														
基幹的誘導施設															
既存建造物活用事業															
土地区画整理事業															
市街地再開発事業															
住宅街区整備事業															
バリアフリー環境整備事業															
優良建築物等整備事業															
住宅市街地総合整備事業															
街なみ環境整備事業															
住宅地区改良事業等															
都心共同住宅供給事業															
公営住宅等整備															
都市再生住宅等整備															
防災街区整備事業															
復興促進事業															
エリア価値向上整備事業															
合計										1,030	928	928	0	928	1.0 …A

提案事業

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	（参考）事業期間 開始年度	（参考）事業期間 終了年度	交付期間内事業期間 開始年度	交付期間内事業期間 終了年度	（参考）全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費
地域創造支援事業														
事業活用調査	事業効果分析調査	－	越前町	直	－	R9	R9	R9	R9	3	3	3		3
まちづくり活動推進事業	オープニングイベント支援事業	（仮称）朝日地域交流センター	越前町	直	－	R7	R7	R7	R7	3	3	3		3
合計										6	6	6	0	6 …B

居住誘導促進事業

事業	事業箇所名	事業主体	直／間		（参考）事業期間 開始年度	（参考）事業期間 終了年度	交付期間内事業期間 開始年度	交付期間内事業期間 終了年度	（参考）全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費
居住誘導促進事業													
合計									0	0	0	0	0 …C
												合計(A+B+C)	934

(参考)都市構造再編集中支援事業関連事業

事業	事業箇所名	事業主体	所管省庁名	規模	(いずれかに〇)				事業期間		全体事業費
					直轄	補助	地方単独	民間単独	開始年度	終了年度	
合計											0

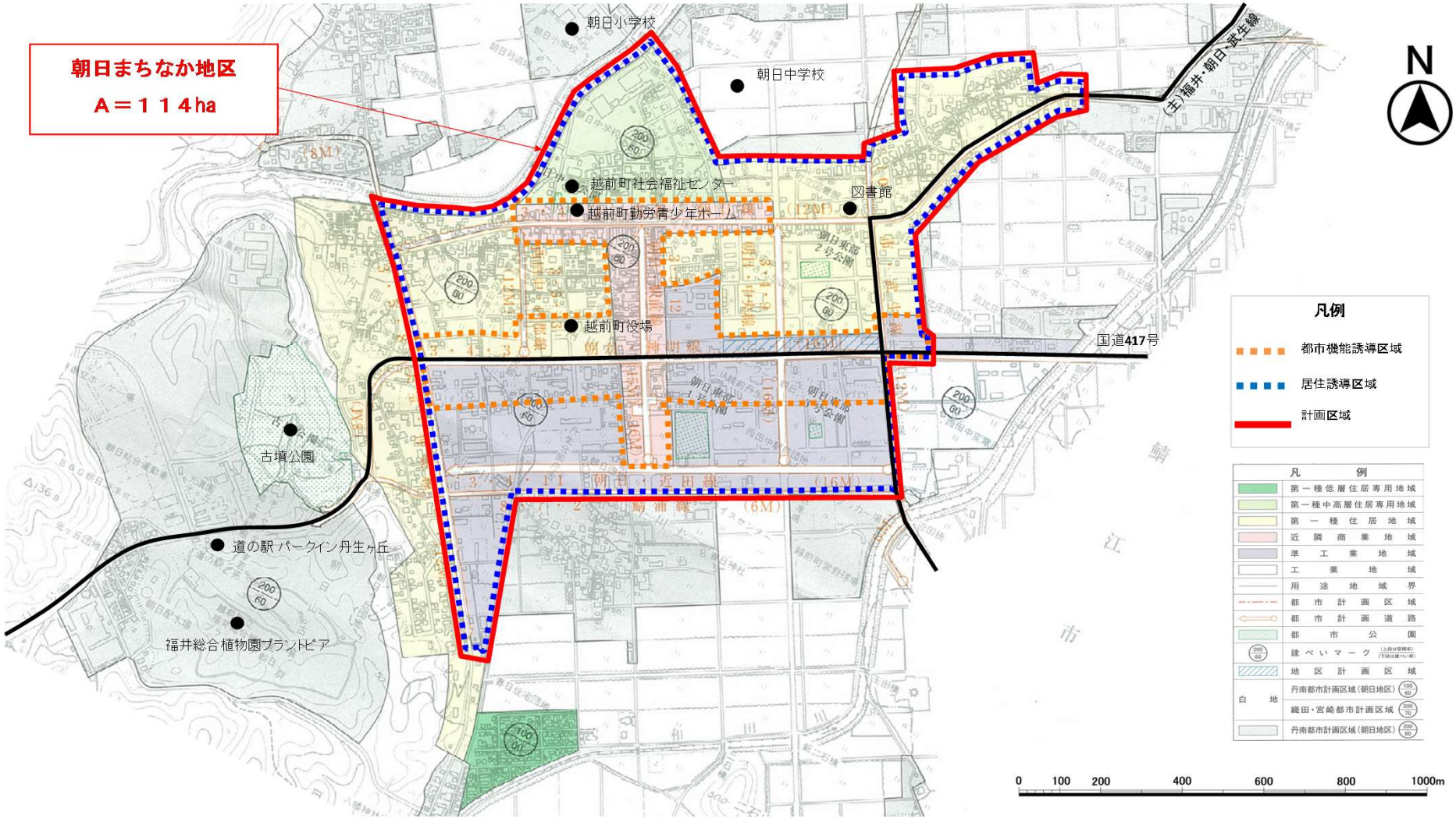
(参考)関連事業

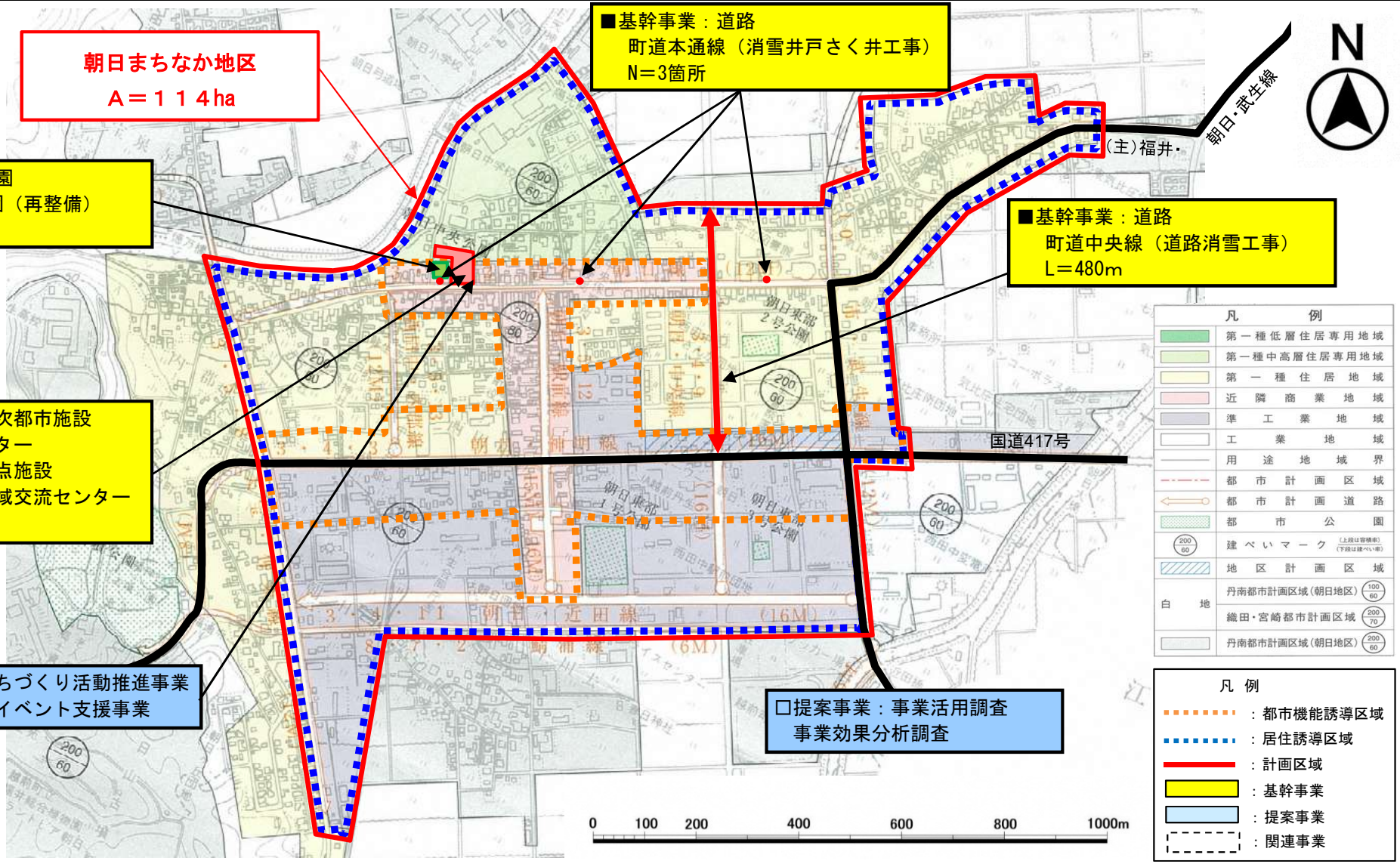
事業	事業箇所名	事業主体	所管省庁名	規模	(いずれかに〇)				事業期間		全体事業費
					直轄	補助	地方単独	民間単独	開始年度	終了年度	
合計											0

都市再生整備計画の区域

様式（1）-⑥

朝日まちなか地区（福井県越前町）	面積	114 ha	区域	越前町西田中、西田中1丁目～4丁目、東内郡1丁目～4丁目、内郡の一部、朝日の一部、朝日1丁目の一部、気比庄の一部



朝日まちなか地区（福井県越前町） 整備方針概要図（都市構造再編集中支援事業）

目標	大目標：越前町の「にぎわい・生活拠点」としての魅力の向上 目標1：安心・安全で、新たな生活スタイル等にも対応する生活拠点の創出 目標2：多様な交流の舞台・機会の創出による地域コミュニティの醸成 目標3：地域資源の活用と多様な主体の交流・連携による地域経済の活性化	代表的な指標	地区内人口（年平均減少率）（ % ）	0.4	（R2年度）	→	0 （R9年度）
			地域交流センターの利用者数 （人/年）	1,940	（R1年度）	→	3,000 （R9年度）
			地域交流イベント等の開催件数 （件/年）	1	（R1年度）	→	3 （R9年度）